

## 第16回練馬区医学会

### 19. 整形外科疾患における超音波検査の有用性について

医療法人社団遼山会 関町病院

整形外科 ○ 風間 貴文、丸山 公、大国 央志、  
山田 新太郎

検査科 嶋村 順

#### 【目的】

整形外科疾患における超音波検査の有用性と問題点について、症例を提示して検討した。

#### 【対象】

当院において、平成20年1月から平成21年2月末までに行われた超音波検査は637件、そのうち整形外科疾患に行われたのは325件であり、内訳は外傷116件、変性疾患115件、腫瘍性疾患53件、その他41件であった。

#### 【症例】

腱板損傷診断における超音波検査の有用性と問題点、MRIとの比較  
関節炎、腱鞘炎などの簡便な臨床診断  
外傷の臨床診断  
単純X線描出困難な微細骨折の超音波診断  
軟部腫瘍の診断と超音波ガイド下穿刺  
その他

#### 【考察】

整形外科疾患において超音波検査の有用性については、他科に比べ未だ認知度が低いと言わざるを得ない。

今回、代表的な整形外科疾患において、超音波検査を施行し、他の画像診断装置と比較し検討した。

従来、MRIの独壇場と言われてきた腱板損傷診断における超音波検査は、観察したい部位に直接アプローチでき、動態撮影が可能、外来で手軽に診断可能など、MRIと比較しても遜色ない有用性を発揮する。

単純X線で描出困難な微細骨折の診断、外傷や炎症性疾患で超音波検査は、部位のみならず病態診断も可能であり、外来診療の有力な武器となる。

超音波検査の長所と短所を理解し、手技に習熟することにより、整形外科疾患においても有用な検査法となると考えられる。

近い将来、超音波検査が「整形外科医にとっての聴診器」という存在となり、臨床の場で汎用されると考える。